







〇〇〇 病院 定期配信 (月1回) 病院からのアドバイス原稿 犬の飼い主様向け

| 月齢 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
|----------------------|--|---|---|--|---|---|
| 月のテーマ | ダイエット・誤食 | 泌尿器疾患 | 狂犬病ワクチン | ノミダニ予防 | フィラリア | 健康診断 |
| タイトル版 (26文字以内くらい) | ごちそうの多い季節 肥満や誤食にご注意を! | 膀胱炎になる子が急増 気がなったらすぐに病院へ | 狂犬病の予防接種は すべてのワンちゃんに義務 | 実はとっても怖いノミやダニ 病院の処方薬でしっかり予防を | よく聞く「フィラリア」 かかると一体どうなるの? | 犬はしゃべれないからこそ 定期的健康診断を |
| 画像 | | | | | | |
| 内容案 (400-600文字) | <p>ごちそうを食べる機会が多い年末年始、つい食べ過ぎてしまいがちですが、ワンちゃんにもおいしいものをあげすぎてしまっていないですか? 「目をキラキラさせて持っているワンちゃんの姿を見ると、あげずにはいられない」というのは、多くの飼い主さんが感じていることだと思います。人間同様、ワンちゃんも肥満によって病気のリスクが上昇。関節炎や心臓病などのほか、関節炎や関節の变形も引き起こします。</p> <p>体質が弱くなってきたら、ペットフードを低カロリータイプやダイエット処方食などに見直したり、おやつの種類や与え方を工夫するだけで無理なくダイエットを始められます。早食いしてしまう子は少しずつフードを入れてあげるなど食べ物の管理をしてあげることも、飼い主さんの愛情です。</p> <p>寒い冬は、つい家にこもりがちになってしまいますが、運動不足も肥満のちです。寒くとも外に出るのを嫌がるワンちゃんも少なくありませんが、日の出ている暖かい時間に散歩に行くなど、少しずついいので、お散歩に行くように心がけましょう。</p> <p>また、誤食にも注意が必要です。お供え物やお餅、お神酒などいつもではない特別なものにワンちゃんは興味を持ちます。ご馳走を筆がかりしてくる節や塩枝・竹串なども危険ですので飼い主さんがしっかり注意してあげましょう。</p> | <p>1年でもっとも寒いこの時期、何をしても凍結になってしまいますね。動物も人と同じで、トイレに行くのも凍結になってしまいがちですが、ワンちゃんのトイレの回数が減るのには要注意。おしっこ回数が減ると膀胱炎になりやすくなるため、冬は膀胱炎になる子が増えています。ひどくなると、尿が出なくなることもあり、そのまましておくとわずかに1日で命に関わることもある、とても怖い病気です。日頃から愛犬の様子をよく見て、早期発見・早期治療を心掛けましょう。</p> <p>尿路疾患チェックポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頻回におしっこに行く ・陰部をきりきりかき回している ・トイレは長いが少ししか出ていない ・トイレ以外でしてしまう ・おしっこに血が混じる ・おしっこをするときに痛そうに鳴く(緊急!) ・おしっこが全くでない(緊急!) <p>こんな症状があったら、膀胱炎の可能性が考えられます。特に痛そうなおしっこや、おしっこが全く出ていない場合は、命に関わる可能性が高まるため、様子を見てはいけません。すぐに診察にお越しください。</p> <p>尿が出ている場合でも、上記の症状が続くようならなるべく早く診察を受けることをおすすめします。その際は、おしっこを持参できる検査がスムーズになります。おしっこの検査は液体である必要があるため、容器に入れてできるだけ早く持ってきてください。すぐに持ってこれない場合は冷蔵庫で一時的に保管し、6時間以内を持ってきてください。うまく出来ない場合はご相談ください。</p> | <p>桜前線北上中の今日この頃、すっかり春らしくなりましたね。ワンちゃんたちにとっては、年に一度の狂犬病ワクチン接種の季節でもあります。フィラリアやノミ・ダニ予防と違い、狂犬病ワクチン接種は、「狂犬病予防法」という法律で、すべてのワンちゃんに義務付けられています。「うちの子はもう高齢だし、家からあまり出ることもないので、打たなくてもいいのでは?」と思っていられない、高齢のワンちゃんの場合、獣医師の診断証明がなければワクチン接種の免除になりませんのでご注意ください。</p> <p>現在日本は世界でも数少ない「狂犬病がまん延していない国」になりましたが、60年程前には日本でも流行していました。今でもまん延している国があるので、いつ再度日本に入ってきてもおかしくはない状態です。予防のための狂犬病ワクチン接種はとっても大切なことです。</p> <p>万が一に感染した場合、恐ろしいことに、亡くなる確率はほぼ100%。その感染経路の多くが、身近な存在である犬からなのです。怖い話ですがたとえば、自分の愛犬が狂犬病に感染していたとすると、何かのきっかけで知らない人に噛みついてしまった場合、相手を殺してしまう可能性もあるということです。</p> <p>ドッグランなどでは、狂犬病のワクチンを「打っている」「打っていない」で、飼い主さん同士トラブルになってしまうこともあります。周りの人のためにも大切なワンちゃんのためにも、必ずワクチン接種をするようにしましょう。</p> <p>3月から5月までは大変込み合いますので、お早めの来院をおすすめします。</p> | <p>ワンちゃんの散歩がますます楽しくなる春の到来とともに、ノミ・ダニ予防の季節がやってきました。「愛犬にノミ・ダニがついているのを見たことがないから大丈夫」「室内飼いだから大丈夫」と思っていないですか?</p> <p>ノミやダニは暖かい時期に発生しやすく、人の服などについて家の中に入ってきたり、姿を隠したりすることもあります。現代の私たちの快適な住まいは、ノミダニにとって快適な環境であり、たとえ夏冬でも十分発生することができる環境なのです。</p> <p>ワンちゃんがかゆい思いをするだけでなく、ノミが原因でおこる病気がノミアレルギー、爪異常などたくさんあります。ダニが原因でおこる病気が、SFTS(重症熱性血小板減少症候群)、赤い発疹が出て筋肉痛や関節痛になるライム病、血液に寄生し、ひどい貧血を起す babesia 病などがあり、命に関わる感染症を引き起こす場合もありますし、ワンちゃんだけでなく同居されているご家族がかかる病気もあります。</p> <p>ダニは、草むらや、河川敷など水のある所に多く潜んでいますので、なるべく近づかないようにしましょう。また、愛犬に寄生しているダニをみつけた場合、引っ張ってとってしまうとダニの体の一部が皮膚に残り、ひどい炎症をおこします。自分ですら、すぐに診察にお越しください。また、ダニがまだどこかに潜んでいるかもしれないので、時間をかずに予防薬を使うことも大切です。</p> <p>予防薬には市販薬もありますが、病院で出される薬とは違い、十分な予防や駆除は期待できません。しっかり予防するために、ぜひ病院にご相談ください。現在は、予防薬の種類も増え、「オールインワンタイプ」[3か月間対応のノミ・マダニ予防]など、さまざまなタイプがあります。ワンちゃんのライフスタイルやご予算に合わせてお選びいただくことができます。想像以上に怖いノミ・マダニ。大切なワンちゃんのためにも飼い主さんのお心にも配慮と対策の最善を高めましょう。</p> | <p>春が過ぎ去り季節になると、気を付けなければいけないのが蚊の対策です。よく知られているのが「フィラリア」ですが、「聞いたことはあるけれど、どんな病気なのかよくわからない」という飼い主さんも多いのではないのでしょうか? 今回は、知っているようで知らない、フィラリアについてです。</p> <p>フィラリアとは、ワンちゃんが蚊に刺されて感染する寄生虫で、このフィラリアが心臓や肺を寄生することで、さまざまな症状が起ります。これを、「フィラリア症」といいます。「咳が出る」「食欲がない」「元気がない」「呼吸困難」「血尿が出る」といった症状が現れ、重症の場合は命に関わることもあります。このため、予防薬を確実に投与することが重要なことです。</p> <p>フィラリア症の予防方法は、月に1回予防薬を投与するだけです。錠剤や皮膚に塗るタイプなど、薬の種類は複数あるため、ライフスタイルや投与のしやすさに合わせてお選びいただけます。蚊によって感染する病気なので、投与時期は地域によって異なりますが、数日おきに投与する必要があります。蚊に刺されないように蚊取り線香や虫除けスプレーなどを使いますが、それでも刺されてしまうことがあります。ワンちゃんも同じで、いくら虫除けスプレーをして、100%防げない場合もあります。</p> <p>予防薬を必要期間にわたって確実に投与していただければ、きちんと防げる病気です。つっかりお忘れないうち、毎月の投与日を手帳やカレンダーに書いておくのをおすすめです。</p> <p>ワンちゃんの健康を守るためにも、動物病院でしっかり対策をあげましょう。</p> | <p>さわやかな新鮮な季節になりました。お散歩のしやすい、いい季節ですね。</p> <p>日頃、ワンちゃんと暮らして、ある日ふと「あれ? 何かいつもと様子が違うかも……?」と思われることはありませんか? そのふと気づいた違和感が、実は病気の始まりのサインかもしれません。</p> <p>ほとんどの病気が、初期症状として「食欲がなくなる」「元気がなくなる」など、何らかのサインを出します。しかし、中には腎臓病など、初期段階で目に見えないサインを出さない病気もあります。</p> <p>このような病気を早期に発見するために、また、愛犬が現在、体のどこにも異常がなく、健康なのかどうかを知るためにも、ぜひ定期的な健康診断をおすすめします。</p> <p>健康診断は、血液検査や尿検査、便検査が基本です。一見元気でもどこも問題なく見えるワンちゃんも、定期的に検査をする事で、「前回と比べて検査の数値が上がっているの、普段の生活はこういうところを気をつけてみましょう」「水分を意図的にとるようにしてください」などをお伝えすることが出来ます。病気があった場合でも早期に見つかることで、早く治療を始めることができるので長生きにつながります。</p> <p>ご希望がある場合は、レントゲン検査やエコー検査など、全身の細かい健康チェックを行うことも出来ます。中程度で行うことができるため、健康診断にも大変有効です。ワンちゃんは体の違和感や異常を自分で訴えることができません。ワンちゃんを人と比べて同じ1年でも成長のスピードが全く違います。人の場合でも年に1回は受ける健康診断、大切なワンちゃんに長生きしてもらうために定期的に受けてあげましょう。</p> |

| 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|--|--|--|---|---|---|
| 熱中症 | 消化器 | 皮膚 | 腎臓病 | 冬の健康診断 | デンタルケア |
| 人間だけじゃない！ 犬も要注意の熱中症 | 季節の変わり目、 胃腸の具合にご注意を | ある日突然毛が抜ける？ 誰にでも起こりうる皮膚疾患 | 気がつけば進行している 「サイレント・キラー」とは？ | 秋の健康診断で冬支度 いち早く病気の身を構えよう | お口のトラブルを あまみてはいけぬ理由 |
|  |  |  |  |  | |
| <p>シリシリと照りつける夏の到来、 のが熱中症ですが、わたしたち まめに水分をとったり、帽子をか き、さまざまな対策をとりますよ と同じように、犬も熱中症にか してしまうことがありますので注意が す。わたしたちにとっては「大丈 感する温度でも、ワンちゃんに は熱く感じている場合があります お散歩の時は、道路を踏んで熱 を確認するなど、他の季節よりも念 温度や湿度に気を付けてあげま す。</p> <p>な症状がでたら注意！> ティング（体温調節のために行 えくような呼吸） の充血 、運動失調、意識消失 （心拍数が増加している状態） 発作（併せて嘔吐や下痢が出る あり）</p> <p>場合、涼しい部屋で安静にして ければ当院へお越しください。ふ 作の場合は、水で体を冷やして 越してください。</p> <p>を起して高体温が続くと、内臓 害が出てしまい、重症な場合は命 す場合もあります。特に、バクや ッグなどの短頭種、大型犬、肥満 、心臓・呼吸器に持病がある場合 意です。</p> <p>屋外だけではなく、室内でも注意 です。外気温が高くなるにつれ 温も上昇するため、実は室内で熱 かかるとケースも多くあります。自 気温や湿度に注意し、しっかりと 対策をしてください。ワンちゃん でも具合が悪そうな場合や、くっ ていたら時間をあがずにすぐに診 けることをおすすめします。</p> | <p>8月中旬を過ぎると夜は気温も下が り、日中の気温も大きくなります。 このように、気温や気圧の変化が大き なる季節の変わり目は、嘔吐・下痢・血 便などの消化器の症状を伴って、体調を 崩してしまうワンちゃんが増えます。 吐いたり・下痢などの症状があればわか りやすいですが、「何となく食欲がな い」「なんだかダルそうな感じ」など、 一見「夏バテかな？」と思ってほっと してしまうケースも多々あります。吐い たり下痢をするだけでも、脱水症状によ って命に関わるケースも存在しますし、 「夏バテかも？」の除で、実は大きな病 気が進行中のこともあります。 やはり、「うちの子、体調悪いかも？」 と思ったら、前回来院時などの体温・体 温と比較するだけでも検診としての価値 がありますので、早めに診察に連れて来 られることをおすすめします。</p> <p>季節の変わり目の消化器の症状は、早め のケアで良くなることも多いのも特徴 のひとつです。日頃、飼い主さんが見 ているワンちゃんの行動や排泄といった主 観的な部分と、病院での体温・体温測定 などの客観的なデータを組み合わせるこ とで、初期段階で不調を汲み取ってあげ ることが、言葉の通じないワンちゃん達 にはとても重要といえます。</p> <p>まだ暑い日が続きますので、飼い主さん ちワンちゃんも体調管理には気を付け て、食欲の秋に向け胃腸は万全にしてお きましょう。</p> | <p>9月に入りましたが、まだまだ蒸し暑い 日が続きますね。道路にも熱がこもっ ていますので、日中のお散歩は十分気を つけてあげてください。 さて、この時期は「ホットスポット」と 呼ばれる皮膚病が発生しやすい季節でも あります。ある日突然、ワンちゃんが体 の一部を猛烈にかゆがり、毛の一部が ごっそり抜け、皮膚がじくじくと湿疹を 起こしていることがあります。これが ホットスポットで、蒸し暑い季節によく みられる皮膚病のひとつです。</p> <p>ある日突然発症することが多いのも特徴 で、「前日までは何ともなかったのに、 朝起きたら毛が大量に抜けていた」とい うこともよくあります。激しくかゆめたり 掻いたりするあまり、周囲の被毛には唾 液と膿液によって出る血液や膿液が付 着していることがほとんどで、これは、 皮膚が広範囲に激しく炎症を起こして いることを示しています。皮膚の上の被毛 は、ごっそりと根ごと抜けてしまうこ とも少なくありません。</p> <p>アレルギー体質が疑われる子は、病院で アレルギーの原因となる物質を調べて もらい、判明した原因物質をなるべく避 ける生活を心がけるとよいでしょう。ま た、ノミやマダニなど、予防薬で防げる ものに関しては、夏が来る前からきちん と対策しておくことも大切です。</p> <p>ホットスポットは、夏にシャンプーをし たり水遊びをした後に出やすいといわれ ています。毛が濡れたまま高温の状態が 続くとも、毛根が蒸れた状態になり、細菌 が非常に感染しやすい状態になるから です。</p> <p>シャンプーや水遊びをした後は、気温が 高いからといって自然乾燥に任せるの ではなく、エアコンのきいた涼しい部 屋でドライヤーで乾かし、根元までしっ かり乾いているか確認してあげましょ う。</p> | <p>朝晩、冷え込む日も増えてきましたが、 ワンちゃんは元気にしていますか？ 今 回は、気が付かずに進行していること も多い、腎臓病のお話です。 「サイレント・キラー」とも呼ばれる腎 臓病は、症状が出ていなくても進行し ていることが多い。怖い病気のひとつ です。 健康な腎臓は、「血液が腎臓に入る一き れいにした血液を体に戻す→汚れは しっくへ」というサイクルを繰り返して います。一方、病気の腎臓は、「血液が 腎臓に入る→血液は汚れたまま→色の 薄い尿が増える」というサイクルとなり、 血液の汚れをおしことして排出するこ とができなくなるもの、それでも汚れ を出そうと無理をして、水のような色の 薄いおしっこをたくさん出すようになる のです。</p> <p>気が付かずに進行し、ある日突然命 に関わる状態になることも少なくありま せんが、早期診断・早期治療で、大切 な命を守ることができます。 次の項目にチェックが多ければ、慢性腎 臓病の精密検査をおすすめします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲むお水の量が増えた ・おしっこの量が多い、トイレの時間が 長くなった ・トイレ以外での粗相が増えた ・口臭がひどくなった ・うんちが臭くなってきた ・嘔吐してきた ・毛並みが悪くなった <p>いずれも、日頃からワンちゃんの様子を よく観察していれば、気づくことので きるものばかりです。 「もしかしら？」 と思いついたことがあれば、すぐに当院 へご相談ください。</p> | <p>落ち葉が舞い散る今日この頃、すっかり 秋めいてきましたが、ワンちゃんはお 変わりありませんか？ 寒くなるこれら の季節は、人も犬も体調を崩しやすい 季節です。本格的な冬を迎える前に、 ワンちゃんも“冬支度”をしませんか？ 病気の早期発見に大切なことは、日頃 からワンちゃんの体に触れ、よく観察 すること、ごはんや運動・住環境など の適切なケア、そして、定期的な健康 診断です。</p> <p>ワンちゃんは、人の4～5歳の早さで歳 をとっていきます。多くの人が、年 1回健康診断を受けますが、ワンちゃん の場合、年に2回行ったほうが、体の異 常をより早くみつかることができ安 心です。実際、「前回の健康診断の数値に 比べて、特定の数値が急激に上 がっている」と気付いて、病気の可能性 を早くに発見できたというケースも多 くあります。</p> <p>言葉が通じない分、飼い主さんが少し でも早く、日々の体調や、動作のわず かな変化に気づいてあげることが、健康 で快適な生活を継続させる最大のポ イントです。病気の身を初期段階で 持つことで、重症化するのを防げる 可能性が高まるのです。</p> <p>病気になる前から病院へ行くのではな く、日頃からワンちゃんの健康状態を 把握することを心がけましょう。本格的 に寒くなっていくワンちゃんの外 出も大変です。比較的過ごしやす いこの時期に来院をおすすめします。</p> | <p>毎日寒い日が続きますね。公認もす かり落ち葉模様となりましたが、 ワンちゃんは元気にしていますか？ 今回は、犬の寿命が延びるととも に問題になってきている、歯周病 についてです。</p> <p>愛犬の口臭、最近気になったこと はありませんか？ お口のトラブルは、 初期の頃はほとんど目立たないため、 ご家族の知らないうちに歯周病が 進行していることがよくあります。 歯の異常は、気が付かずに進行して しまうので、「口を構がる ようになる」「歯が折れる ようになる」「歯が引き こぼれる」など、深刻な症状を引き 起こします。歯周病は、飼い主さん の努力で防ぐことができるもの、 このように、お口のトラブルが深刻 な状態になる前に、健康なう ちから気にかけてケアしてあげ ることが、何よりも大切な ことです。</p> <p>歯周病予防には、何をおいても歯 を磨くことが第一です。人のデンタル ケアと同じように、毎日の歯磨き が基本といえます。</p> <p>歯ブラシを使用することが最も有効 ですが、磨ければ、きれいな歯 や、カーゼを指に巻いて「指磨き」 をしてあげてもよいでしょう。た だ小さい頃から慣れていないと嫌 がるワンちゃんもいます。どう してもできない場合は歯みがき ジェルなどで対策しましょう。歯 周病は、細菌性心内膜炎などを引き 起こすことにもなるため、日頃 からの予防が何よりも重要 です。デンタルケアは、「たまに やる」のではなく、「毎日 コツコツ続けること」が肝 心なので、歯磨きの仕方がわ からない場合は、お気軽に当 院にご相談ください。</p> <p>大切なワンちゃんのお口の健康 のために頑張って歯磨きを してあげましょう。</p> |

〇〇〇 病院 定期配信 (月 1回) 病院からのアドバイス原稿 猫の飼い主様向け

| 月齢 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
|-----------------------|---|---|---|--|---|---|
| 月のテーマ | ダイエット・食事 | 泌尿器疾患 | 健康診断+ストレスケア | ノミダニ予防 | フィラリア | 猫の甲状腺機能亢進症 |
| タイトル案 (26文字以内で5文字) | 人もネコちゃんも ダイエットを始めるなら今! | 命に関わることもある膀胱炎 思いあたらば即病院へ | 大切なネコちゃんを守る ストレスケアと健康診断 | ほんとうは怖いノミやダニ 春から始める徹底予防 | 犬だけの病気じゃない! 猫も要注意のフィラリア | 元気なのは進行中!? 甲状腺の病気とは |
| 画像 | | | | | | |
| 内容案 (400~600字) | <p>年末やお正月は、ごちそうを食べる機会も多いもの。つい食べ過ぎてしまいがちですが、ネコちゃんにもおいしいものをあげすぎていませんか? 「隙」で目をキラキラさせて持っているネコちゃんの姿を見ると、あきずにはいられない! というのは、多くの飼い主さんが感じていることだと思いますが、ほんの少しの過ぎでも、ネコちゃんの場合は食べ過ぎにつながってしまいます。肥満による病気のリスクは人と同じで、ネコちゃんの場合、糖尿病や脂肪肝、胆管炎、膀胱炎などにつながる可能性があります。</p> <p>体重がなくなってきたら、ペットフードを低カロリータイプやダイエット処方食などに見直ししたり、おやつの種類や与え方を工夫するだけで無理なくダイエットを始められます。早食いしてしまう子は少しずつフードを入れてあげるなど食べ物の管理をしてあげること、飼い主さんの愛情です。</p> <p>寒い冬は、暖かい室内ですと寝ているネコちゃんも多いですが、運動不足も肥満のちとです。レーザーポインターと一緒に遊んだり、キャットタワーやイス、階段を使った上下運動も効果的です。</p> <p>また、食事にも注意が必要です。お供え物やお餅、お神酒などいつもは特別なものにネコちゃんも興味を持ちます。ご馳走を奪わしてはくれない飼い主さんや、竹串なども危険ですので飼い主さんがしっかりと注意してあげましょう。</p> | <p>「猫はこたつで丸くなる」と歌にもあるように、寒い冬は何をするにも億劫になってしまふもの。猫も人と同じで、寒さのあまりトイレに行くのも億劫になってしまいがちですが、ネコちゃんをよく観察してみてください。トイレの回数、減っていませんか? おしっこを回数が増える膀胱炎になりやすく、冬は1年のうちで膀胱炎になる子が多い季節なのです。ひどくなると尿が出なくなることもあり、そのまましておくとわずかに1日で命に関わることもある、とても怖い病気です。</p> <p>尿路疾患チェックポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頻回におしっこに行く ・陰部をしきりになめている ・トイレは長いが少ししか出ていない ・トイレ以外でしてしまう ・おしっこに血が混じる ・おしっこをするときに痛そうに鳴く(緊急!) ・おしっこが全くでない(緊急!) <p>こんな症状があったら、膀胱炎の可能性が考えられます。特に痛そうの場合や、おしっこが全く出ていない場合は、命に関わる可能性が高まるため、様子を見てはいけません。すぐに診察にお越しください。</p> <p>尿が出ている場合でも、上記の症状が続くようならなるべく早く診察を受けることをおすすめします。その際は、おしっこを持参できると検査がスムーズになります。おしっこの検査は液体である必要があるため、容器に入れてできるだけ早く持ってきてください。すぐに持ってこれない場合は冷蔵庫で一時的に保ち、6時間以内に持ってきてください。うまく出来ない場合はご相談ください。</p> | <p>全国各地で桜が開花し、待ち遠しい春がやってきました。寒さが苦手なネコちゃんたちも、過ごしやすい季節になってきましたね。今回は、ネコちゃんも意外にたまっているストレスについてのお話です。</p> <p>繊細な心を持つネコちゃんは、自分のいつものと違うことが起こるとストレスを感じることも多いといわれています。動物病院に来るのが苦手、病院に行くことを怖がる隠れたり隠れてしまったり嫌がるネコちゃんが多いのはこのためです。ストレスを少しでも感じさせないために、今回は来院から診察を受けるまでの間にできるストレス対策をご紹介します。</p> <p>まず来院後、受付を済ませて診察を受けるまでの待合場所として、車でお越しの方は車内で、また、ご自宅が近くの方は、ご自宅での待機がおすすめです。</p> <p>診察の前番が近づき、院内で待機される際は、ネコちゃんをキャリーケースの中に入れて、飼い主さんのひざの上やスペースがあればイスの上に置いてあげましょう。ついでに置きがちですが音が響くのでストレスがかかります。このとき、ネコちゃんの匂いがついた大きめのタオルやフリスビーでキャリーケースを包んで目隠ししてあげると、よりストレスが軽減できます。</p> <p>ストレスケアのおすすめグッズとして、緊張を和らげる効果のあるフェロモンのストレスケアスプレーや、アロマオイル、植物のエッセンスなど、さまざまなアイテムがありますので、活用してみてくださいいかがでしょうか。</p> <p>また、ネコちゃんは病気を表に出さずに隠そうとする動物なので、定期的な健康診断も大切です。腎臓病など、初期段階で目に見えるサインを出さない病気が、発見が遅れてしまいがちです。このような病気を早期に発見するためにも、ぜひ定期的な健康診断をおすすめします。</p> | <p>暖かい日差しが降り注ぎ、ホカホカ満ちた日が多くなってきました。人やネコちゃんも刺されるとやっかいなノミやダニも、気温の上昇とともに活発に活動し始める季節でもあります。</p> <p>ノミダニ対策ですが、「屋外飼育など心配だけれど、うちは室内飼いだから大丈夫!」と思っていないですか? ノミやダニは、人の髪などについて家の中に入ってきたり、姿を隠したりすることもありますが、現代の私たちの快適な住まいは、ノミダニにとっても快適であり、たとえ冬でも十分に寄生することができる環境の中に住んでいます。</p> <p>ネコちゃんがかゆい思いをするだけでなく、ノミが原因でおこる病気がノミアレルギー、爪実条虫症などたくさんあります。猫がかき癖のある子もかき癖がなく同棲されているご家族を危険にさらしてしまいます。</p> <p>ネコちゃんに寄生しているダニをみついた場合、引っ張ってとってしまおうとダニの体の一部が皮膚に残り、ひどい炎症をおこします。自分でとらずに、すぐに診察へお越しください。また、ダニがまだどこかに潜んでいるかもしれないので、除菌をおかずに予防薬を使うことも大切です。</p> <p>予防薬には市販薬もありますが、病院で出される薬とは違い、十分な予防効果は期待できません。しっかりと予防するために、ぜひ病院にご相談ください。現在は、予防薬の種類も増え、「オーレインタイプ」【3か月間対応のノミ・マダニ予防】など、さまざまなタイプがあります。ライフスタイルやご予算に合わせてお選びいただくことができます。想像以上に怖いノミ・マダニ。大切なネコちゃんのために、飼い主さんのためにも警戒と対策の意識を高めましょう。</p> | <p>前線がまぶしい季節になりました。ネコちゃんにとっても快適な日々ですが、蚊が飛び交うシーズンもすぐそこ。蚊といえば、気をつけなければいけないのが「フィラリア」です。「聞いたことはあるけれど、どんな病気なのかよくわからない」「犬の病気じゃない?」という飼い主さんも多いのではないのでしょうか。今回は、知っているようで知らない、フィラリアについてです。</p> <p>フィラリアとは、寄生虫の一種で、ネコちゃんがフィラリアの幼虫を吸血した蚊に刺されることで、このフィラリアが体内に侵入し、肺や心臓に寄生し、さまざまな症状が起きます。これを、「フィラリア症」といいます。</p> <p>「咳が出る」「食欲がない」「元気がない」「呼吸困難」「嘔吐」などといった症状が現れ、重症の場合は命に関わることもあります。このため、予防薬を確実に投与することが重要なのです。</p> <p>フィラリア症の予防方法は、月に1回予防薬を投与するだけです。「うちのネコは外に出ないから大丈夫!」と思っている方もいらっしゃるかもしれませんが、わたしたちも、室内で刺されることがありますよ。蚊は、ちょっと窓を開けた隙に入ってくることもあり、蚊取り線香や虫除けスプレーをしても、100%防げないこともあります。しかし、予防薬を必要な期間にわたって確実に投与していれば、きちんと防げる病気です。蚊によって感染する病気なので、投与期間は地域によって異なりますが、蚊がいる可能性のある間は毎月忘れずに投与するようにしましょう。</p> <p>うっかり忘れていたためにも、毎月の投与日を手帳やカレンダーに書いておくのもおすすめです。</p> <p>ネコちゃんの健康のためにも、動物病院でしっかり対策をあげましょう。</p> | <p>ムシムシした日が続きませんが、ネコちゃんには元気にしていますか? 梅雨時期は体調を崩す子も多いので、いつも以上に飼い主さんが気をつけてあげたい季節でもあります。</p> <p>ネコちゃんの様子を見て、「最近水を飲む量が減った」「食欲が落ちた」など、なぜか体調が悪いなどといったことはありますか? ひょっとすると、「甲状腺機能亢進症」かもしれません。この病気は、甲状腺のホルモンの過剰によって起こるものですが、甲状腺ホルモンの量はほとんどの組織に作用し、代謝を盛んにする働きがあります。このため、「食欲が増えたり活発になる」など、一見いたって元気に見えるのですが、実は体内では病気が進行していることです。</p> <p>種別や性別に関係なく、10歳を過ぎた猫に発生することが多いのも特徴です。ほかにも、「落ち着きなくなると」「目がギラギラしている」「呼吸が速い」といった症状があり、原因としては、甲状腺の過形成、甲状腺腫瘍、甲状腺ホルモン薬の過剰投与などがあります。</p> <p>診断の方法としては、血液中の甲状腺のホルモンの量を測定し、ホルモンが異常に上昇していることで診断します。この病気は、治療を行わなければ命に関わります。治療を行えば完治、もしくはいい状態で症状をコントロールをすることができますので、日頃からネコちゃんの様子をよく観察することが大切です。</p> <p>ネコちゃんも病気を隠す動物なので症状が現れた時にはすでに病気が進行している場合があります。前とちよって違うかもと違和感を見たら、すぐに診察へ連れて来られることをおすすめします。</p> |

| 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|--|--|--|--|---|---|
| 熱中症 | 消化器 | 皮膚 | 腎臓病 | 冬の健康診断 | デンタルケア |
| 暑もかかる熱中症 短頭種や肥満の子は要注意 | 夏(テ)と油断しないで! 消化器が働いているのかも… | 前日まで普通だったのに…… 突然肌毛する皮膚病とは | 猫に多い腎臓病は 日頃のチェックで防ごう! | 日頃の観察と健康診断で いつまでも健やかに | ネコちゃんのお口のトラブル 重大な病気につながることも |
|  |  |  |  |  |  |
| 日に日差しが強くなり、本格的な夏が近づいてきました。この時期に心配なのが熱中症です。わたしたちはごまめにこまめに、帽子をかぶるなど、さまざまな対策をとります。人だけで猫も熱中症にかかってしまうことがあります。人にとっては「大丈夫」な暑さでも、ネコちゃんにとっては危険な場合がありますので、注意が必要です。他の季節より忠実に湿度に気を付けてあげましょう。 | 暑い日が続きますが、ネコちゃんは夏バテしていませんか? 昼と夜の気温差が大きくなる季節の変わり目は、人も体調を崩しやすいのですが、ネコちゃんも同様です。気温や気圧の変化が大きくなる時期は、嘔吐・下痢・血便などの消化器の症状を伴って、体調を崩してしまう子が急増します。8月下旬になると、夜は急に冷え込んで日中との気温差が大きくなるため、体調管理には十分な注意が必要です。 | 日中はまだまだ蒸し暑い日が続きますが、ネコちゃんは元気にしていますか? この時期は、「ホットスポット」と呼ばれる皮膚病が発生しやすい季節でもあります。ある日突然、ネコちゃんが体の一部を猛烈にかゆがり、毛の一部がこっそり抜け、皮膚がじくじくと湿疹を起していることがあります。これがホットスポットで、蒸し暑い季節によくみられる皮膚病のひとつです。 | 秋晴れが続き、カラッとした過ごしやすい季節になりました。ネコちゃんたちにとって快適なシーズンの到来です。さて、今回はネコちゃんに多い腎臓病のお話です。「サイレント・キラー」(静かな殺し屋)とも呼ばれる腎臓病は、症状が出ていなくても進行していることが多い。怖い病気のひとつです。 | 日に日に気温が下がり、冬の足音が聞こえてきました。ネコちゃんはお変わりありませんか? 暑くなるこれからの季節は、人も猫も、体調を崩しやすい季節です。本格的な冬を迎える前に、ネコちゃんも「冬支度」をしませんか? 病気の早期発見に大切なことは、日頃からネコちゃんの体に触れて、よく観察すること、ごはんや運動・住環境などの適切なケア、そして、定期的な健康診断です。 | 木枯らしが吹き、すっかり寒くなりまして、ネコちゃんは暖かいお部屋で快適に過ごしていることと思います。今回は、ネコちゃんにも欠かせない、デンタルケアのお話です。 |
| 「皮膚病がでたら注意!」> ティンク(体温調節のために行うような呼吸) の脱血 、運動失調、意識消失 ら発作(併せて嘔吐や下痢が出る あり) | 吐いたり・下痢などの症状があればわかりやすいですが、「何となく食欲がない」「なんだかダルそうな感じ」など、一見「夏バテかな?」と思ってほっとしてしまうケースも多々あります。吐いたり下痢をするだけでも、脱水症状によって命に関わるケースも存在します。「夏バテかも?」の除で、実は大きな病気が進行中のこともあります。 | ある日突然発症することが多いのも特徴で、「前日まで何ともなかったのに、朝起きたら毛が大量に抜けていた」ということもよくあります。激しく揺めたり掻いたりするあまり、周囲の被毛には唾液と病変によって出る血液や尿液が付着していることがほとんどで、これは、皮膚が炎症に激しく炎症を起していることを示しています。皮膚の上の被毛は、ごっそりと根ごと抜けてしまうことも少なくありません。 | 健康な腎臓は、「血液が腎臓に入る→きれいにした血液を体に戻す→汚れはおしっこへ」というサイクルを繰り返しています。一方、病気の腎臓は、「血液が腎臓に入る→血液は汚れたまま→色の薄い尿が漏れる」というサイクルとなり、血液の汚れをおしっことして排出することができなくなるもの、それでも汚れを出そうと無理をして、水のような色の薄いおしっこをたくさん出すようになるのです。 | ネコちゃんは、人の4~5倍の早さで歳をとっていきます。多くの方が、年に1回健康診断を受けますが、ネコちゃんの場合、年に2回行ったほうが、体の異常をより早くみつけることができ安心です。実際、「前回の健康診断の数値に比べて、特定の数値が急激に上がっている」と気付いて、病気の可能性を早く発見できたというケースも多くあります。 | お口のトラブルは、初期の頃は目立つ症状が出ないため、ご家族の知らないうちに歯周病が進行していることがよくあります。歯の異常は、気付かずに進行してしまうと、「口を痛がるようになる」「腫がたまる」「骨が折れる」など、深刻な症状を引き起こします。歯周病は、飼い主さんの努力で防ぐことができるもの、このように、お口のトラブルが深刻な状態になる前に、健康なうちから気にかけて、ケアをあげることが何よりも大切なのです。 |
| 季節の変わり目が高体温が続くと、内臓病も出てしまいます。重症な場合は必ずしも熱が出るわけではありません。特に、ペルヒミアラヤンなどの短頭種や、肥満心臓・呼吸器に持病がある場合は注意です。 | 季節の変わり目の消化器の症状は、早めのケアで良くなることも多いのも特徴のひとつです。日頃、飼い主さんが見ているネコちゃんの行動や雰囲気といった主観的な部分と、病院での体重・体温測定などの客観的なデータを組み合わせること、初期段階で不調を汲み取ってあげることが、言葉が通じないネコちゃん達にはとても重要といえるでしょう。 | ホットスポットは、夏にシャンプーをした後に汗や皮脂がこびりついて、毛根が蒸れた状態になり、細菌が非常に感染しやすい状態になるからです。 | 気づかううちに進行し、ある日突然命に関わる状態になることも少なくありませんが、早期診断・早期治療で、大切な命を守ることが出来ます。次の項目にチェックが多ければ、慢性腎臓病の精密検査をおすすめします。 | 言葉を話せないネコちゃんは、飼い主さんが日々の体調や表情、動作のわずかな変化に気がつくことが、健康で快適な生活を継続させる最大のポイントといえるでしょう。わたしたちよりも早いスピードで歳をとる分、おうちの観察が欠かせません。 | 歯周病予防には、何をしてお歯を磨くことが第一です。歯ブラシを使用して歯みがきをしてあげることが最も有効ですが、難しい場合は、きれいな歯ブラシ、カーデを指に巻いて「指磨き」をしてあげてもよいでしょう。ただし小さい頃から慣れないと嫌がるネコちゃんもいます。どうしてもできない場合は歯みがきガムなどで対策しましょう。歯周病は、細菌性心臓炎などを引き起こすこともあるため、日頃からの予防が重要です。デンタルケアは、少しずつでも毎日コツコツ続けることが肝心です。歯磨きの仕方がわからない場合は、お気軽に当院にご相談ください。 |
| 暑もかかる熱中症も多々あります。自宅でも暑くなるため、実は室内で熱中症も起こります。しっかりと対策を行ってください。ネコちゃんでも具合が悪そうな場合や、苦しんでいるら時間をおかずにご注意を受けることをおすすめします。 | また暑い日が続きますので、飼い主さんネコちゃんも体調管理には気を付けて、食欲の秋に向け腎臓は万全にしておきましょう。 | シャンプーをした後は、気温が高いからといって自然乾燥に任せるのではなく、エアコンのきいた涼しい部屋でドライヤーで乾かし、根元までしっかりと乾いているか確認してあげましょう。 | いずれも、日頃からネコちゃんの様子をよく観察していれば、気づくことできるものばかりです。「もしかして?」と思いついたことがあれば、すぐに当院へご相談ください。 | 病気がなってきたら病院へ行くのではなく、日頃からネコちゃんの健康状態を把握することを心がけましょう。本格的に寒くなるとネコちゃんの外出も大変です。比較的過ごしやすいこの時期に来院をおすすめします。 | 大切なネコちゃんのお口の健康のために頑張って歯みがきをしてあげましょう。 |